

日独共同大学院プログラム 事後評価結果

コーディネーター所属機関・部局・職・氏名 大阪大学・大学院基礎工学研究科・

教授・真島和志

研究課題名：環境調和を指向した生物および化学プロセスに関する共同大学院教育

プログラム

評価結果	
	S 想定以上に意義があった
○	A 意義があった
	B ある程度意義があった
	C ほとんど意義がなかった
所見	
<p>日独双方教員の相互訪問による講義の実施や「ダブル Supervisor 体制」に基づいた大学院学生への研究指導、学位審査への参画による共同課程の編成が行われ、また、相手国での研究滞在や国際セミナー開催によって学生の英語によるコミュニケーション能力の向上に効果があり、国際的に活躍できる若手研究者の育成が行われた。このことは、大学院における教育研究の国際化や国際会議での発表件数及び受賞件数の増加につながっている。</p> <p>大阪大学とアーヘン工科大学の協力関係の構築においては、期待された成果を上げている。大学間・部局間交流協定の締結・更新により、協力関係の継続性が保たれるとともに、全学的な支援にも発展しており、今後の共同教育研究活動の維持が期待できる状況と判断される。加えて、活発な交流によってさらに深い信頼関係が築かれ、共同教育研究活動の成果も十分に上がったと評価できる。</p> <p>ただし、現時点で学術雑誌に発表された論文を見ると特定の教員のみが共同研究成果を上げているようであり、組織的な学術連携の効果はあまり見えない。また、本課題の推進によって学生の博士論文の水準が上がり、国際的な研究者としての第一歩が踏み出せたかどうかについては、現時点では判断できない。学位取得後にアーヘン工科大学でポストクの身分に就く者がいれば両大学の組織的な学術交流はさらに強固なものになると考えられる。さらに、学生の派遣期間は1ヶ月程度であるものが多いが、2~3ヶ月以上の中長期の派遣を組織的に行っていれば、プログラム実施における効果がより高くなったであろう。</p>	